井上リボン工業 株式会社

▶対 象 類 型　情報処理、製造環境
　　機械制御、測定計測
▶事 業 類 型　一般型
▶主たる目的　生産性向上

細幅織物（リボン）の染色工程における生産性向上事業









1
2 3 4

1／今回導入した連続染色機。現在は主にサンプル品の製作のために稼働。モニターには染色時の温度や湿度が細かく表記される。2／自動調合機はモニターを新しくしたことで、染料の残量や割合などが視覚的に分かりやすくなった。 3／リボンは素材やデザインだけでなく形状においても広がりを見せており、編んで作るリボンは池田町にあるグループ会社で作っている。 4／自社製品の「uzu-bowl」は、巻きリボンが見せる断面の美しさを生かしたボウル。手作業で成形する。

工業分野の売上30%増に向け、効率よい染色作業を。

繊維業界は、アパレル分野のみならず、自動車のエアバックや、医療で使う人工血管などの工業分野にも活躍の場を広げており、アパレル分野と工業分野の売上の割合は五分五分と言われている。井上リボン工業は、細幅織物（リボン）をメインに製作している。近年、OA機器のトナーのクリーニングブラシや自動車のドア回りの補強材などを手掛けるようになり、工業分野の売上は全体の20%程度まで伸びている。今後は全国と同じく「工業分野の売上割合が全体の50%」を目指している。

しかし、工業分野進出に伴い、染色サンプルを作る機会が増えて問題になったことが2点。染色サンプル製作のたびに生産ラインを止めて、作業を割り込ませなければならなかったこと、そして、染色サンプルごとに染料の調合作業が増えたことだ。そのため本事業で、約5～10m分の染色ができる連続染色機を導入した。短くて済む染色サンプルをスピーディーに作れ、また、生産ラインと作業を切り離せるようになった。さらに、染料を調合するための自動調合機も導入し、染料を切り替えるたびに染料の割合を入力する手間を省いた。これらにより作業効率が上がり、今後20～30%の生産性向上が図られる予定だ。

注目すべき成果

デジタル化で ミス軽減を図り 生産性も向上。

連続染色機と自動調合機のどちらにも、新しいパソコンを導入。染色時の温度管理や、染料調合の割合を自動で行えるように。また、画面上での確認作業ができるようになり、ミスの軽減にもつながった。

注目すべき成果

染色サンプル 専用機導入で 作業分担し効率UPへ。

連続染色機を新たに導入したことで、生産ラインを止めずに染色サンプルを作れるようになり、効率が上がった。また、今までより短いリボン染色が可能なため、少量のみ必要な染色サンプルは無駄なく作れる。

今後の展望

工業分野に より力を入れ 更なる活躍へ。

連続染色機の導入によって染色サンプルの製作がスピーディーになり、納期を柔軟に対応できるようになった。保有している独自の特許製品を生かしながら、今後工業分野での売上30%増を目指す。

ものづくり専門員から一言

独自の技術力と創造力をあわせて工業分野で大いなる活躍を。

体の動きにあわせて見え方が変わる「アコーディオ」というテープで特許を取得するなど、独自の技術力と創造力が光る同社。これまでの経験と今回導入した機械を生かし、工業分野へと活躍の場がさらに広がることを期待している。

こんな会社です！

リボン製作を基本として工業分野でも生活を支える製品を。

当社は、創業からリボンを主に製作しており、今でもアパレル分野で高いシェア率を誇っています。また、「リボンプロジェクト」と題し、異分野のクリエイターとコラボして、リボンのボウルやマグネットなど、商品を独自開発しています。今後は、工業分野により一層力を入れ、世の中のニーズに応えていかねばなりません。自動車の内装やパーツの一部、コピー機の中の一部など、人の目に触れにくいところではありますが、さまざまな要望に技術で応えられるように体制を整え、更なる展開をしていきたく思います。



代表取締役社長
井上 博之さん



同社工場。連続染色機が何台も稼働中。中国の大連やベトナムには工場、香港と上海には事務所がある。



本社

井上リボン工業 株式会社

代表者／代表取締役社長 井上 博之
設立／昭和38年（1963年）8月
資本金／4,000万円
従業員数／139人
事業内容／繊維工業
売上高／21億9,600万円
〒915-0243 越前市千原町2-6
☎0778-43-0810　FAX.0778-43-0807
E-mail ribbon_info@telala.com